

日本学術会議 幹事会附置委員会 フューチャー・アースの推進に関する委員会（第4回）及び
環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSTAS 合同分科会（第7回）
合同会議 議事要旨

1. 日 時：平成26年5月8日（木）15:30～17:30

2. 場 所：日本学術会議5階5-A（1）（2）

3. 出席状況

フューチャー・アースの推進に関する委員会

出席者：安成委員長、杉原副委員長、江守幹事、蟹江幹事、山本委員、春日委員、大西委員、
中島委員、花木委員、氷見山委員、沖委員、小池委員（スカイプ）、三枝委員、中
静委員、春山委員、毛利委員、山形委員、植田委員、植松委員、谷口委員（20名）

欠席者：小林委員、児玉委員（2名）

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSTAS 合同分科会

出席者：安成委員長、中静副委員長、松本幹事、三枝幹事、中島委員、氷見山委員、沖委員、
鬼頭委員、小池委員（スカイプ）、杉本委員、矢原委員、山形委員、大政委員（13
名）

欠席者：甲山委員、齋藤委員、佐藤委員、山中委員（4名）

説明者：河宮未知生（独）海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター グループリ
ーダー

事務局：飯島次長、盛田参事官、佐藤参事官、辻上席学術調査員、佐藤専門職

4. 配布資料：

- ・資料1：第3回委員会議事要旨（案）
- ・資料2：Suggested action list
- ・資料3：Worksheet1:Preparations for question from Alliance on Bid Document
- ・資料4：Worksheet2:Monday Morning
- ・資料5：JpGU2014.FEsession Responses
- ・資料6：Project Concept Proposal: Sustainability Initiative in the Marginal
Seas of East Asia(SIMSEA)
- ・参考：委員名簿

5. 議 事：

（1）前回議事要旨案の確認

配布資料「前回議事要旨（案）」について了承された。

（2）Future Earth の推進に関する審議

【日本事務局設置の推移：Future Earth 本部事務局誘致の現状報告】

春日委員より、Future Earth（以下、「FE」）の本部事務局誘致に関する現状報告が、資料2～4を用いて行われた。主な点は次のとおり。

- ・日本は、フランス、スウェーデン、カナダ、アメリカとともに、本部事務局誘致の申請を行った。選考結果は6月4日に明らかとなる予定。
- ・今後インタビューが行われる可能性がある。資料3はその際の想定問答に関する資料である。
- ・本部事務局が決定した後、暫定事務局から本部事務局への事務移行が、7月から12月にかけて行われる予定である。現在は、そのための準備も行っている。資料2はこの移行に伴い行うべきことのリストで、資料4は7月当初に備えておくべき要件のリストである。

【国内での推進活動実績、計画：Future Earth の国内コンソーシアムの発足】

春日委員より、国内コンソーシアム等に関する情報提供が行われた。主な点は次の通り。

- ・今年の3月に国際事務局誘致の正式な組織である「国内コンソーシアム」が発足した。日本学術会議はコーディネーターという位置づけである。
- ・日本コンソーシアムの事務局は、東京大学のサステナビリティ学連携研究機構（IR3S）に設置することとした。
- ・地域ノードの事務局は、総合地球環境学研究所に設置することを予定している。

【関係各機関の活動状況等:FEで優先して行う課題SRAとエンゲージメントコミッティについて】

安成委員長から、FEで優先して行う課題SRA: Strategic Research Agendaに関する国際的な取り組みと、正式なエンゲージメントコミッティの選出状況について紹介があった。

ICSUのサイエンスコミッティと、FEの暫定エンゲージメントコミッティで相談しながら、FEで優先して行う課題SRA: Strategic Research Agendaを取りまとめようとしているという情報提供があった。6月に北京で合同会議を行い、決める予定とのこと。

また、今、正式なエンゲージメントコミッティのメンバーを選んでいる段階にあり、6月末には決定する予定とのこと。

(3) その他の審議

【日本としてFEを進めていくときに何をすべきか、どうすべきか】

安成委員長より、日本としてFEでどのような研究を進めていくか、どのような戦略を持つべきか、議論を行う提案があった。導入として、資料5の委員間のディスカッションメールが紹介され、環境問題とそれへの対策に関する世論のあり方に関して科学者の間でも認識の違いがあることなどが紹介された。これに続き自由討議を行った。

(意見・ディスカッションの抜粋)

■専門家の間の問題意識と研究の統合

- ・専門家の中でも温度差があることに敏感でありたい。エネルギー工学等産業に近い分野の人も入れる必要があるだろう。環境村の集団になってしまわないか心配。また、この問題では、「経済的最適化までの議論」「人間の価値観転換も含めて大きな話までの議論」の2つの間のずれの違いが繰り返されてきているという点も考慮に入れるべきだろう。
- ・FEが出てきたのは、総合的なものの見方を科学者が行えなくなったことにある。プログラム間の統合が必要である。また、一般の人々の科学的リテラシーは向上していると思う。
- ・ワシントンDCで行ったFEの会議では、関連する4つのプロジェクトの間の意思の疎通ができていなかった。これをお見合いのような形で話し合いを続けた。その結果、統合ができない理由として、各分野において、タイムスケールと空間スケール（ローカル、ナショナル、グローバル）が不連続であることがわかってきた。この齟齬にどのように対応するかが課題である。

■日本から提案する内容について

- ・科学者の役割としては、FEの方向性を示すことが重要だろう。
- ・イシューの観点からすると、貧困・財政赤字等様々ある課題の中で、相対的にFEが必要であると主張できるかが重要である。社会的、政治的、経済的にアピールできるかが重要である。
- ・一番すべきことは、科学者の間を詰めることではないか。また「価値観」と「事実関係」はなるべく分けるべきである。価値観に科学は踏み込めない。とはいえ、データの提示により価値観が変わるということはある。最終的に重要なのは、政策科学だろう。社会的支持を考慮した政策オプションの提示ができなくてはならない。また、コーデザインについては、日本は実践してきたのでこの経験を生かして、「ガイドライン」を作成するべきである。
- ・世界の流れをみて提案につなげてほしい。IGBPが先日検討した、重要なテーマとしては、Urban Areas, Geoengineering, Impacts of Low-carbon Energy Systemsの3つがあげられた。これに、Atmospheric Pollutionを追加した4つを、IGDPは重要な研究テーマとして考えている。

■必要な人材（社会科学、哲学、産業界）

- ・社会科学や人文科学・哲学の研究者が必要であると実感した。政府間や科学者間の調整（ガバ

- ナンスやマネジメント)といったことの専門家が、委員として入っている必要があるだろう。
- ・ステークホルダーとして、企業が大切である。社会に影響を及ぼす設計をFEに関して行っておかないとならない。

■その他

- ・FEの推進プロセスそのものが、我々が直面している社会に置ける課題解決の手法でもあるだろう。議論をすれば解決できるという考え方から脱し、積極的に進めていく必要がある。
- ・次の期(10月以降)にどうするか考えつつ、進めるべきである。
- ・総合地球環境学研究所で、FE関係の国内シンポジウム等様々なイベントの資料のアーカイブを作成してもらえると大変ありがたい。

【日本としてFEで行うことのとりまとめ】

自由討議を受けて、「日本としてFEで行うこと」を委員会として取りまとめることとした。たたき台を安成委員長中心に数名で作成することとした。取りまとめにあたっては、昨年にメールベースで各委員から提出されたもの等を材料とすることとし、6月のサイエンスコミティに間に合わせられるように作業を行うこととした。

【その他の報告1】

山形委員より配布資料6に基づいて報告があった。具体的には次のとおり。

- ・SIMSEA (Sustainable initiative for marginal seas in East Asia) という、アジアの縁辺海の協働的研究プロジェクトで、ICSUに研究コンセプトのプロポーザルを提出し、おおむね好評であった。

【その他の報告2】

氷見山委員より、本委員会の分科会「持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会」で提言を取りまとめ中であり、本委員会委員からも積極的なコメントを希望している旨報告・依頼があった。

(4) その他

【委員の追加について】

日本コンソーシアムの発足等を鑑みて、以下の3名を本委員会の委員に追加する方向で調整を行うこととなった。

東京大学サステナビリティ学連携研究機構 武内和彦先生
東京大学サステナビリティ学連携研究機構 福士謙介先生
科学技術振興機構 安岡善文先生

【次回の開催について】

6月から7月に開催することで調整することとした。

以上